

JGS ニュースレター42号 (2019/令和元年 8月発行)

JGS 宝石シンポジウム

魅惑たっぷり多彩なガーネット 第二弾 ～ガーネットを語らずして宝石は語れない～

REPORTED by ベルデライト 棚橋 綾

ガーネットにこだわりが強くあるわけではないけれど、かなりの種類のガーネットをコレクションしている私としては、日独宝石研究所の古屋氏のガーネットについての講義は聞きに行かなくてはと思って、参加させていただきました。

申し込みをしたときから、何故第一回を聞き逃したのだろうかという悔しい気持ちと、今回は参加できるタイミングだったことの感謝の気持ちで、受講の日を心待ちにしていました。

そんな気持ちで臨んだセミナーでしたが、会場について用意されていたレジユメのタイトル「シン・ガーネット」を拝見して、新？真？エヴァンゲリヲンのファンの古屋氏なら、シン・ゴジラに引っかけているのだろうかなどと思ったらその通りだったので、意気込んで参加していた肩の力が抜けてリラックスできました。



さて、肝心のセミナー内容ですが、ガーネットの複雑さをわかりやすくレジユメを使って解説していただいて、大変有意義なものでした。

端成分のガーネットについて最低限の知識はありましたが、ロードライトガーネットとアルマンディンについての最新の情報はかなり驚きました。

以前アルマンディンだと思っていたガーネットが鑑別してもらったら、ロードライトガーネットだったことがありました。

現在の鑑別では成分での鑑別ができるようで、ロードライトガーネットは紫色のものであり、赤が強いものはアルマンディンと勉強した私には、それが通用しないことに驚きつつ、言われてみれば自分が子供の頃に思っていた赤黒く暗いガーネットと、大人になってから見かけているガーネットは色合いと明るさが少し違う感じがするので、そういうことなのかと思ったりもしました。実際は昔のガーネットでもきちんと鑑別してみないとアルマンディンかどうかわからないので、昔見た赤黒く暗いガーネットを見つけたら鑑別してもらおうと思いました。

その他のガーネットについても非常に興味深いお話を沢山聞きました。

ロシア産のデマントイドガーネットの加熱についてや、宝石品質が少ないためあまり流通していなく、めったに名前を聞くことのないウバロバイトについて認識を新たにできました。

ガーネットは固溶体のためさまざまな混合型のガーネットがあり、それによってその特徴や産地をイメージした様々なトレードネームで流通しており、一段とガーネットの分類が難しくなっているそうです。少し頭のなかがかんがらがってしまうけれど、奥が深く分類が難しいからこそ、気がついたらガーネットをコレクションしてしまうのだらうと思いました。



前半の講義が終わり、後半になると実際にガーネットを観察しながらの宝石クイズが始まり、参加者の皆様一様に食い入るように観察をしていました。

講義で出てきたガーネットはほぼすべて網羅されていて、それをルーペだけで見てガーネットの種類を当てていくのは、とても難しいものでした。

特徴的なインクルージョンがあったり、色合いであったりして簡単にわかる物がある反面、見ただけではどこに分類されるのかわからないガーネットや、ち

よっとひねった感じのものなどあり、本当に難しかったです。

この宝石の観察とクイズ、そしてその後の答え合わせは、普段では絶対体験できない非常に有意義な時間で、とてもわくわくしながら沢山のガーネットを観察させていただきました。クイズの対象ではないけれど、参考として用意されている石も、そうそう見るこのできない資料がたくさんあり、非常に贅沢な講演だと感じます。

こういった講習会に参加できて大変幸運だと思いました。

ぜひまたこのような勉強会に参加させていただきたいです。

ありがとうございました。

JGS 一般社団法人 日本宝石協会		2018年7月11日	
宝石写真	種類	正解	
1			
2			
3			
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			
16			
17			